

てんかんの診療拠点機関

岡山大病院を指定

県が体制整備

県は25日、てんかん患者が受診しやすい体制を整える。大病院（岡山市北区鹿田町）を指定した。てんかん治療は診療科が神経内科、脳神経外科など複数にまたがり、患者側から分かりにくいとの指摘もあること

患者、家族ら計12人で

れば発作を抑えることができる。日本てんかん協会（東京）によると、100人に1人の割合で発症し、国内の患者は約100万人とされる。

厚生労働省のモデル事業として県が2015年度から3年間取り組む「てんかん地域診療連携体制整備事業」の一つ。岡山大病院は

岡山大病院は13年、院内にてんかんセンターを設置し、患者のサポートを独自に進めてきた。伊達勲センター長は「患者にとって最良の治療ができる体制を整えたい」と話している。

から、拠点病院を決めて地域の他の医療機関と連携を深めながら、切な医療機関を紹介気。適切な治療を受け

細胞が過剰に活動し、発作を引き起こす病

（岸研一）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。